

自然サイト

五島列島(下五島エリア)ジオパーク

番号	地区	サイト名	分類	見どころ等(キーワード)	概要
1	久賀島	亀河原(かめごうら)のヤブツバキ純林	五島の大地と植生	ヤブツバキ群落	久賀島の南西部に位置し、樹林面積は6.7ヘクタールほど。北向きの山の中腹から海岸際まで斜面全体をヤブツバキで覆い尽くした純林。ツバキ林内には他の樹木はほとんどないが、下層にはツブブキ、シダ類が一面に広がる。また、管理が行き届かないためか、現在ではツバキ林の大部分をツタカズラが覆い尽くそうとしている。ツバキ分布調査では、約10,000本のヤブツバキが確認されている。久賀島ではまた、日本に古くから野生していた日本固有の柑橘類であるタチバナ(現在では希少種となっている)の自生が数本確認されている。
2	岐宿	八朔鼻(はっさくばな)の海岸植物	五島の大地と植生	海岸植物:ヒメハマナデシコ、ノアサガオ、ハマサジ、ハマゴウ、ゲンカイミミナグサ、ハマナデシコ、ハマホラシノブ、ネコノシダ、シオクグ	五島八朔鼻は、五島市岐宿町の北端に位置し、地形的には岬の先端にある小島が堆積物によって陸続きとなった、いわゆる陸けい島となっている。その周辺地区を八朔鼻とよび、その地域の海岸は溶岩海岸となっているが、八朔鼻はそれに砂礫が堆積した浜が見られる。したがって狭い地域ながら、福江島で海岸植物が最も多い地区となっている。 (価値)狭い範囲に長崎県に産する海岸植物の約3分の1が生育するという、きわめて海岸植物が豊富な場所である。海岸植物の中にはレッドデータブックに記載されているスナビキソウ、ハマサジ、ゲンカイミミナグサが生育している。また、対馬暖流によって運ばれる南方系種子も発芽しており、グンバヒルガオも毎年見られる。
3	福江	鬼岳の草原植物	五島の大地と植生 大陸との繋がり	草原植物:ミツバツチグリ、リンドウ、フナバラソウ、アキノキリンソウ、イガクサ、シバハギ 大陸系草原植物:イヌハギ、ツチグリ	鬼岳の草原に生育する植物。野焼きによって維持されている。
4	富江	井坑(いあな)のドウクツミミズハゼ	五島の大地と貴重な生物	ドウクツミミズハゼ	日本最大級といわれる溶岩トンネルでドウクツミミズハゼが生息する唯一の場所と言われている。
5	玉之浦	大瀬崎のシマシャジン	大陸との繋がり	大陸系植物:シマシャジン	五島層群の断崖の上に灯台が立つ。周囲は森から海までの植物のエコトーンが見られ、生物多様性に重要な役割を果たす。希少な植物シマシャジンや大陸へ渡るハチクマ、アサギマダラが観察できる。
6	玉之浦	高浜~頓泊のカラタチ、サキシマフヨウ	大陸との繋がり 対馬暖流の影響	大陸系植物:カラタチ 九州西廻り分布型植物:サキシマフヨウ	カラタチはミカン科の常緑低木で、枝が変化した鋭い丈夫なとげがある。垣根として植えたり、ミカンの台木に使われたりしてよく知られている。頓泊は福江島の西岸にあり、この海岸に近い粗林内に、クロイグ・フヨウ・ヤナギイチゴ・クマノミズキ・フユザンショウ・ネズミモチなどに混じってカラタチが見られる。もともと中国産と考えられていたが、対馬や五島にまれに自生することがわかった。国内では希少なカラタチの自生地群落としての価値がある。
7	奈留島	皺の浦のハマジンチョウ群落	対馬暖流の影響	九州西廻り分布型植物:ハマジンチョウ	ハマジンチョウはハマジンチョウ科の熱帯性の常緑低木で、東南アジアから北上分布し、台湾、琉球、種子島を経て、九州西岸を五島列島まで至る。本種は波静かな入り江の奥の海岸に生育し、満潮時には株元は海水に浸る。奈留町大串郷字池塚には、直径100m、短径50mの海跡湖があり、その湖岸に長さ80mにわたってハマジンチョウが群落をなす。ほかに海跡湖の湖岸には、本種とともにヒトモトススキ・シバナ・シオクグ・ハマボウなどの塩湿地植物が自生する。指定地のハマジンチョウ群落は3つの特色を有している。一つ目は、かつて五島列島の入り江各所に存在していたであろう大規模な群落をなしていること、二つ目は群生地が海岸ではなく海跡湖の岸にあること、三つ目はその環境の高い自然度である。いずれの点からも我国第一級のハマジンチョウの群落である。

番号	地区	サイト名	分類	見どころ等(キーワード)	概要
8	岐宿	岐宿のタヌキアヤメ群落	対馬暖流の影響	九州西廻り分布型植物:タヌキアヤメ	タヌキアヤメはタヌキアヤメ科の湿地植物で、夏に族生する剣状葉の間から長い花茎が伸び穂状花序が発達する。花は上下二唇からなる黄色の小さいものである。指定地は福江島のほぼ中央の寺脇にある大きなため池である。このほかには珍しいヒツジグサ・ジュンサイ・ヒメコウホネなどが浮き、回りにアンペライ・ミズオトギリ・ヒメミノハギ・シロバナサクラタデなどが茂ってるが、タヌキアヤメはこれらの湿地植物に混じって自生している。南方系のもので、鹿児島県の西海岸に知られ、福江島は分布の北限になる。現在は、環境の変化等でその個体数は少ない。
9	玉之浦	七岳のリウビンタイ群落	対馬暖流の影響	亜熱帯性植物:リウビンタイ	リウビンタイはリウビンタイ科に属するシダで、地下に大きな塊状の根茎があって、これから長さ1m余りの大きな二回羽状の複葉を出している。この葉はやや厚くて濃緑色で美しい。南方系のもので五島列島が北限である。七岳は高さ431mで、荒川から登ると中腹に七岳神社がある。指定の群落はこの登山路に沿う溪流を中心に見られる。この溪流に沿って、バリバリノキ・ホルトノキ・トキワガキ・ヤナギイチゴ・カギカズラなどが見られる。南方系のもので五島列島が北限であるリウビンタイが大群落を形成しているところに価値がある。
10	玉之浦	丹奈のヘゴ,リウビンタイ混交群落	対馬暖流の影響	ヘゴ,リウビンタイ	丹奈は玉之浦湾に臨んだ荒川に近い集落である。指定地は丹奈の集落からさらに2kmほど登った標高100mほどのところである。指定当時の記録によるとここは溪流をはさんでモチノキ・ヤブツバキ・ヤブニッケイ・ハウロクイチゴ・クロイゲ・ナチシダ・オオイワヒトデなどの茂るなかに多量のリウビンタイと大小40株のヘゴが見られた。近年、少数のヘゴはよく成長しているが、全体としては少なくなっている。五島列島が北限であるヘゴ・リウビンタイが群落を形成していることは価値がある。
11	福江	増田のヘゴ自生北限地帯	対馬暖流の影響	亜熱帯性植物:ヘゴ	増田町二里木場の指定地は、大正10年(1921)に県書記の内山芳郎が発見した。内山によると、海岸から2km、標高100m附近を中心に、溪流のほとりでヤブツバキ・シキミなどが茂る中に、高さ5mばかりのヘゴの成木と幼木合わせて20本ばかりがあり、附近にアオノクマタケランやヤマコンニャクも見られたという。ところが、現在は成木にまで成長しているものはなく、幼木が10本程ある程度である。附近にはヒロハノコギリシダ・リウビンタイ・ケホシダなどがある。亜熱帯性のシダ植物であるヘゴの自生北限地帯として価値が高い。
12	玉之浦	玉之浦のアコウの巨木	対馬暖流の影響	亜熱帯性植物:アコウ	主幹は回り10.30mほどで、この主幹の地上3mのところから回り6mもある支柱根が地中におりている。そして、その主幹と支柱根の間を参道が通っている。ところがこの支柱根のほかにもこれに次ぐ支柱根が5本もあるから、この巨樹の格好はまことに怪奇にして複雑で、この樹形の不思議さは驚嘆するばかりである。県内有数のアコウの巨樹として価値がある。
13	福江	檜の浦のアコウの巨木	対馬暖流の影響	亜熱帯性植物:アコウ	アコウはクワ科の常緑高木で、中国南部から台湾・南西諸島を歴て、九州・四国・本州の暖地に分布する。県内では島原半島・長崎半島・西彼杵半島の沿海暖地、五島各地、平戸島から北松浦郡の鷹島、吉岐に大木をみる。根まわり15mを越え、樹高10m以上、東西南北へそれぞれ14、19、12、16mも枝を張る。枝はさらに分岐して錯綜し、その枝からは大小の気根が下垂する。長大なものは地面に達して支柱根となり、四方へひろがる枝を支えている。根元には水神を祀ってある。このアコウは長崎県最大の巨樹であるだけでなく、九州でも第一級の部類に入る。
14	三井楽	嵯峨島のアコウの巨木	対馬暖流の影響	亜熱帯性植物:アコウ	嵯峨島の港の北側に火山灰の地層に気根を広げたアコウの巨木がある。火山と亜熱帯性植物という嵯峨島を象徴するような場所。